

## 石川の思い出

あれは忘れもしない2月16日(月)の昼すぎ、当日は給料日、さらに前日の長野オリンピックラージヒルで船木『金』、原田『銅』の余韻が残っており、今日は金沢で一番の繁華街「片町」で飲もうかな...と考えているときの電話、取り次ぐと「ヒガシです」と聴いて、ある団体の人材高度化推進委員の「東部長?」、しかし、声がいやにハンサムな声、聞き直して初めて「荒尾の東です」でビックリ、さて何事が...

実はポリテクセンター荒尾の東治義さんとは今から約3年前、ポリテクセンター加古川で阪神・淡路大震災の特別コースに派遣されたときに知り合いになりました。東さんは大変な紳士で仕事熱心、いまだに宿舎での手料理の味が忘れられない方です(荒

尾での実態は逆かもしれませんが...?)

当センターでは翌日、ポリテクセンター荒尾で実施されている三井三池炭鉱閉山に伴う特別コースへ、石川から派遣された高松喜一さん(ご苦労様でした)が帰ってこられたので、一席設ける運びとなっていました。東さんのことだから気を利かせて「荒尾の特産物を宅配便で送ったから石川のみなさんで食べてください...」と言うのかなあと一瞬ひらめきましたが、実はこの原稿の話。途端に午後からの業務に支障をきたし、ユウウツになったことを覚えています(別に恨んではおりません...ほんとうはこれで目が覚めました)

しばらくこの原稿を書くのを忘れておりまして、

秀句つれづれぐさ 本宮 鼎三

退屈をたのしんである安居かな 草間 時彦

句集『盆点前』所収、平五作。「安居」は「夏安居」「雨安居」「夏行」などといい、仏教語。旧暦四月十六日から七月十五日までの九十日間、僧侶が一室にこもって修行の精進をすることをいうのであるが、この句の場合、僧の修行のことではない。役職から身を引き常に家に居る自身のことを「安居」に似ているといつているのである。むしろ、その退屈を楽しむ...つまり達観の境地といえる。故石田波郷門(社団法人協会前理事長、現顧問)。

硯洗ふしろがねいろの最上川 柚木 紀子

句集『鹵凡』所収、平十刊。「硯洗ふ」は七夕の前日、硯や筆、机などを洗ったり拭いたりして習字の上達を願うという風習が、かなり昔より現今に伝承されてきた。翌七日に稲の朝露を硯に受け墨をすり、七夕色紙に願いを書くなどという風雅なことは忘れられていよう。最上川の流れが銀色というのも、流れの激しいところか、この作家の感性の表現か...芭蕉の「奥の細道」が感ぜられる。故山口青邨門、「天為」「海程」同人など。国際的にも芸境の幅が広い女流俳人。



平成6年の稲刈り（後列左端が筆者）

そろそろ何か書かないといけないなあ～何を書こうかな～と考えているとき、人事異動という天の声!!

というわけで石川の思い出を書いてみようと思います。たくさんある中で1つあげるとすれば、能登半島の観光名所（輪島市）に『千枚田』という景勝地（田んぼ約1000枚以上）があります。晴れたときには20km先にある七ツ島なども見え、『千枚田』を見下ろすところにある「千枚田パーク」では、輪島の民芸品などを売っているおばさんもいて観光客でにぎわっています。実はこの『千枚田』の景観の保存と農作業を支援するという『千枚田の耕作体験』に各自治体、企業、労働組合等と一緒に数年間参加させてもらいました。つまり、「田植え」「草取り」「稲刈り」「ノミニケーション(?)」といった具合です。農家育ちの私ですが、田んぼが小

さく階段状になっているので農作業は大変ですが、一汗流した後の参加した仲間と飲むビールのおいしいこと！別にこれが目的ではありませんが、地域社会に貢献するということの素晴らしさを身をもって体験させていただきました。全国のみなさん、一度、石川の『千枚田』で汗を流してみませんか！

さて、私が次に紹介する方は今や事業団の中心的な役割を担っている、アビリティガーデンで活躍されている「<sup>あじさかじゅんろう</sup>鯉坂純朗」さんです。鯉坂さんとはポリテクセンター石川で、約7年半公私にわたり仕事を共にしました。もちろん千枚田の体験者でもあります。普段の仕事ぶりは大変なもので、今にも「アジの開き」(失礼)寸前になるくらい頑張っていました。それが、突然、年度途中で生涯センター設立準備室へ異動となり、そのとき、石川の方は皆、顔は引きつり、心はショックで泣いておりました。今は、子育てと仕事の両立の中で「実りある成果物？」をたくさん作られていることと思います。それでは鯉坂さん、全国のみなさんへ得意のAGネット配信よろしく願いいたします。

## リレートーク【2】

アビリティガーデン 村松 一貴

# Shall we dance ?

大澤慶子嬢、リレートークご指名いただきありがとうございます。スノーボード、ホノルルマラソンと私のしたいことを先取りするスポーツウーマンの大澤嬢にはいつも脱帽であります。申し遅れましたが、私はアビリティガーデンの村松一貴と申します。はじめまして。早速ですが、以前ダンスでステージに立ったときの思い出をお話します。

公演当日は朝早く会場に向き、照明の取り付け等会場の準備から行い、ゲネプロへと入って行きました。ゲネプロは最終リハーサルであり、本番どおりのタイムスケジュールで行わなければなりません。ゲネプロを終えた後、先生からはかなり堅くな

りすぎているというご指摘を受けましたが、開演が近づくとつれて私の緊張は高まるばかりでした。

いよいよ幕が開け、マンボ系ダンスで登場するオ



ヒップホップ系ジャズダンス（右端が筆者）

ープリングが始まり、観客の声援や拍手を全身に浴びながら私はデビューをしました。そして、このとき私は緊張感とともにステージに立つ感動を覚えていました（この感動が今後のステージ癖をつけてしまった）。次にきたのが一番難関のウエディングでした。2組のカップルが皆に祝福されて結婚式を挙げるのをミュージカル風にアレンジした踊りだったのですが、1組のカップルの片割れが私でした。まさにメインという感じで、精一杯リラックスしようと心がけましたが、結果はいかに（？）。プログラムは有無をいわずに進んでいきます。3番目の出番はマイケルジャクソンのアップテンポな曲でのジャズダンスでした。男性は私1人だけだったので、ミスしたら凄く目立つのではないかとハラハラドキドキでした。しかも、途中パートに分かれていて私は先導のパートを担当し、間違えられない状況での踊りでした。4番目はヒップホップ。スペースジャムの曲にのってとても速いダンスをしなければなりません。しかも、1人ずつポーズを決める場面があり、これもまたハラハラドキドキでした。しかし、自分としては気持ちよく踊れました（後で写真を見たら、終始うつむき加減で前の人ステップを見ながら堅い表情で踊っている自分がいました）。ここで、やっと前半終了。出番と衣装替えの繰り返しで休む暇もなく、時は過ぎてしまいました。

さて、後半戦。まずはデュエットでした。これは女性とカップルになったのコンビネーションダンスです。しかし、男性は結構ステージで立っている状態が多かったので何とか切り抜けられました。次は、出演者全員でのYMCAでした。決められた踊りはありましたが、ノリがよければ大丈夫でした。皆で仮装もしたので凄く楽しかったです。息つく暇もなく、2回目のヒップホップになりました。スローな曲であったために、先行してしまわないように慎重にゆっくり踊りました。しかし、最前列に立っていたため誰の助けも借りられないまさに自分との勝負でした。最後はヒップホップ系ジャズダンスでした。最後だけに皆妙にハイテンションで、とても気持ちよさそうに踊っているの、私も思わず跳んでしまいました。そして、フィナーレを迎えました。初



めのことが多く、実に楽しい公演でした。

それでは、このへんで長野雇用促進センターの山田裕介さんへバトンタッチいたします。彼とは長野雇用促進センターと一緒に仕事をし、お世話になったり、お世話したりといった間柄でしたが、とても気の合う仲間です。山田さんよろしく申し上げます。